

国立の民族共生公園(仮称)基本計画の概要

平成26年6月に設置することが閣議決定された「国立の民族共生公園(仮称)」について、基本理念、基本方針、空間構成等の基本的事項に関して、「国立の民族共生公園(仮称)基本計画検討会(座長:浅川昭一郎北海道大学名誉教授)」による審議を経て、「国立の民族共生公園(仮称)基本計画」を取りまとめた。

1. 基本理念

民族共生公園では、自然と共生してきたアイヌ文化を尊重し、国内外から訪れる多様な来園者の理解を促進するとともに、豊かな自然を活用した憩いの場の形成等を通じ、将来へ向けてアイヌ文化の継承及び新たなアイヌ文化の創造発展につなげるための公園的な土地利用の実現を図る。

2. 基本方針

- (1) 自然と共生してきたアイヌ文化への理解を深める
- (2) 異なる民族が互いに尊重し共生する社会のシンボルとなる空間を形成する
- (3) 豊かな自然を活用した憩いの場を提供する

3. 計画区域

・計画区域は、ポロトと公園通の間に位置する面積約10haの区域。
(博物館建設予定地及びポロト温泉予定地の範囲を除く。)

4. 空間構成計画

・基本方針を具体化するため、3つの空間を計画区域に配置。

a) アイヌの自然観に触れる空間

民族共生公園一帯の自然の豊かさを感じられる空間

b) アイヌの伝統的な生活を体感する空間

様々な伝承活動等を通じて、伝統的な生活を体感する空間

c) アイヌ文化の理解と交流を促す空間

多様な来園者を迎え入れ、理解と交流を促す空間



空間配置のイメージ



アイヌ古式舞踊
[出典:文化遺産オンライン
(文化庁)]



ポロト対岸からのコタンの眺望



ウツナイからの眺望

5. 施設配置計画

伝統的コタンや広場、ポロト周辺の豊かな自然環境等を活かしながら、舞踊、工芸等を始めとするアイヌ文化の多様な要素を一般の人々が体験・交流する体験型のフィールドミュージアムとして、また、多様な来園者が快適に過ごせる魅力ある空間を形成するために必要となる施設を、空間構成計画に基づいて配置。

主な施設概要

- 伝統的コタン……チセ群等の再現によりアイヌの伝統的生活空間を体感できる施設
- 体験交流施設……概ね500~600名程度収容できる体験交流ホール、アイヌ語、伝統的生業等を体験できる体験学習館
- 工房……来園者が工芸の製作を体験できる施設
- 芝生広場……美しい景観、豊かな自然を活用した憩いの場
- エントランス……来園者を安全・円滑に誘導する象徴空間の入口



今後のスケジュール

平成32年の開園に向けて整備を行う。